認定 NPO 法人 横浜日独協会 Staatlich anerkannte Non-Profit Organisation Japanisch-Deutsche Gesellschaft Yokohama

Der Hafen デア ハーフェン

Nr. 69
2024年1月-3月

# 地政学と経済安全保障

横浜日独協会会長　成　川　　哲　夫

## （１）日独フォーラム

2023 年 11 月、ドイツのベルリンで第 31 回日独フォーラムが開催され参加した。日独フォーラムは、日独の経済産業界、政界、学会、メディア界で日独と関係の深い人々が一堂に会し、集中的な意見交換を行う会議である。両国の社会的・政治的・経済的発展および二国間問題だけでなく、国際的な新しい課題もテーマとして取り上げられる。今回は、現状のグローバルな危機に鑑み、地政学リスクと経済安全保障がメインテーマとなり、共通の価値を共有するパートナーである日独両国のさらなる緊密な協力への期待が高まった。日独フォーラムのベルリンでの開催は 2018 年以来 5 年ぶりとなった。今回の会議においては、両国で特に関心の高い「経済安全保障をともに形成する」というテーマで初めて公開パネルディスカッションが開かれた。ここでは 2023 年 3 月に初めて開催された日独政府間協議の成果を踏まえて、経済安全保障のために日本とドイツが具体的にどのような形で協力可能かが議論された。

ドイツ側はドイツ産業連盟のニーダマーク理事とニュルンベルク大学のグリム教授、日本側は三菱電機の経済安全保障担当の伊藤執行役員と私がパネリストを務めた。

私からの意見の概要は、①経済安全保障には同志国間の協力が不可欠で、日本とドイツ(EU)は特にサプライチェーンの構築において重要なパートナーとなりうる。②今年 6 月に EU が公開した「欧州経済安全保障戦略」には 4 つのリスク対策（⑴エネルギー安全保障を含むサプライチェーンリスク、⑵重要インフラの物理的、サイバーセキュリティリスク、⑶技術安全保障や技術流出に関するリスク、⑷経済依存の武器化や経済的威圧のリスク）が謳われ、日本や日本企業にとっても重要な示唆となる。③日本にとっても、同戦略で示されている 4 つの技術分野（半導体、AI、量子コンピュータ、バイオテクノロジー）へ積極的に投資を行い、利益と経済安全保障のバランスを取りながらドイツ外同志国との協力を進めることが今後の課題である。④日本の経済安全保障政策は経済産業省が中心に取りまとめ、官民の戦略的対話を本格化しているが、EU とも緊密に連携して行くことが求められる。⑤特に重要原材料の確保やグリーン技術（水素エネルギー、次世代太陽光発電など）では、日独間では、競争よりも協力が必要となる。⑥特に国際秩序を重んじる日本とドイツ両国間で、更なるパートナーシップの構築は可能である。両国政府、経済団体、個別企業等の幅広い関係者間の、早急な、積極的な交流と連携が望まれる。こうした連携を通じて双方の経済安全保障が具体的に強化されれば、より確固たる安全保障が実現する。

## （２）日独政府間協議

日本とドイツは、2023 年 3 月、政府間協議を初めて開き、供給網（サプライチェーン）の強化など経済安全保障で連携していくことで一致している。中国を名指しすることは避けつつ、鉱物資源など機微な物資の調達で特定の国に過度に依存しないよう協力を進めるとした。共同会見した岸田首相も「経済的威圧、国家主導の不正な技術獲得の動きや非市場的政策・慣行に対抗するため協力していくことを確認した」と表明している。

ドイツでは、新型コロナ危機とロシアによるウクライナ侵攻により生じたサプライチェーンの混乱やロシアからの天然ガス輸入停止など、特定地域への経済的な依存度が高い場合にもたらされる困難が浮き彫りとなった。日独の共同声明では、重要鉱物の供給の確保については、日本のエネルギー・金属鉱物資源機構(JOGMEC)とドイツの連邦地球科学・天然資源研究所（BGR）の連携が合意された。また日本とドイツは防衛や気候保護に関する協力を深めるとともに、鉱物や半導体など重要な分野において特定国への過度な依存を減らすために、より緊密に連携し取り組んでいくことでも合意している。

初の政府間協議に先立ち、ドイツのショルツ首相は、ドイツ経済紙「ハンデルスブラット」とのインタビューで「日本は原材料を確保するための戦略的アプローチを追求してきた」「エネルギーや重要鉱物などの供給を、官民の緊密な連携により確保している日本の戦略からドイツは学ぶことができる」と述べている。日独フォーラムでも、日本の経済産業省の役割についてのドイツ側の関心は高かった。ドイツにおいて経済安全保障の司令塔をどうするか、官民対話をどう進めるかは大きな課題であろう。

## （３）経済安全保障と企業

企業経営者はこれまで以上にリスクや不確実性と対峙する時代となった。経営者には今後地政学的なリテラシーや洞察力が問われることになる。政府も企業も有事の際にどのように不確実性を織り込むのかという課題に直面する。日本とドイツは、安全保障面では、各々日米同盟、NATO 加盟、そして G7、経済政策協調といった関係の上で、一定の抑止力を有している。しかし両国とも経済保障面は構造的な脆弱性がある。日本とドイツは本質的に輸入原料に依存する産業構造を持ち、コントロールが及ばない外部的な状況に依存している。自由で開かれた貿易体制が重要だという主張は正論だが、経済は武器にもなり得る。企業にとって経済の安定、経済の安全保障こそが存続の前提となり、その是非は別として、政府と企業の緊密な連携が求められる時代を迎えているのである。

## ドイツ艦艇爆発事故の犠牲者を悼む墓前祭

常務理事　大 堀　　聰

挨拶する大堀常務理事と
左がペルジケ武官

去る11月19日（日）、根岸の外国人墓地において、墓前祭が行われました。これは1942年11月30日に発生した横浜港でのドイツ艦艇爆発事故の犠牲者を悼むために、ドイツ大使館武官室の主催で毎年開かれています。今年、横浜日独協会は「協力」メンバーとして準備段階から積極的に関わりました。

当日は天気にも恵まれ、大使館からはラルフ・オリバー・ペルジケ武官他が参加し、横浜市からは橋本徹国際局長が参列しました。また東京横浜独逸学園からは、日本でいう高校２年生の生徒およそ 20 名が歴史の先生に引率されて加わり、毎年ブラスバンド演奏で参加している地元の仲尾台中学校ではインフルエンザが流行し、参加が危ぶまれましたが、例年より少ない人数になりながらも参加してくれました。横浜日独協会からは南雲副会長、佐藤理事、中尾理事が参加しました。

横浜日独協会参加者と大使館関係者

式ではペルジケ武官がドイツ側を代表して挨拶し、日本側からは私が挨拶をしました。続いて、仲尾台中学のブラスバンドが音楽を奏でる中、100 名ほどの参加者が献花をしました。献花用の白菊の花は、横浜山手ライオンズクラブが手配しました。このように各方面の協力の元に、しめやかに行われた今年の墓前祭でした。

---

## ゼレンスキー大統領の国連演説を聞き「日独研究フォーラム」を思う

2023年10月３日

浅野　昭博（バイエルン独日協会理事）

９月 20 日、ドイツのニュースで、ウクライナのゼレンスキー大統領の国連安保理演説を聴きました。内容は、国連には期待できない、安保理常任国の一国が侵略戦争を始めたにも関わらず、拒否権を行使し、国連として何も一致した行動が取れないため、国連は袋小路に陥っているとの戦争当事国としての切羽詰まった真摯な演説でした。念のため、この演説内容を日本語でのネット記事で確認をしましたところ、ゼレンスキー氏は、「安保理の改革、そして総会で 2/3 以上の賛成で拒否権をくつがえす案を提示した」との記事がありました。

この提案を前にどこかで聞いたことがあると思いましたら、本年４月１８日に開催された「日独フォーラム」で、神余隆博氏と谷口誠氏という、国連に大変造詣の深い両元国連大使が、自己のご体験に基づき、国連での過去と現在と今後の改革について語っていらっしゃったこととまさに大変似通った内容ではありませんか。フォーラムの席で、お２人がご提案され、ご主張されたことは大変示唆に富み、首肯できる内容でしたので、ゼレンスキー大統領は、フォーラムでお２人がおっしゃったことをもとに演説を起草されたのではないかと思う程でした。改めてお２人の元国連大使の先見性のある洞察力に敬意を表したいと存じます。

次いで安保理での会合で、日本の岸田首相はどのようなことを述べたのか、官邸発表の「安保理での岸田総理スピーチ」によりますと、「安保理の決定を妨害し、その信用を失墜させる拒否権を乱用することは国際社会として認められるものではありません。・・・法の支配に基づく国際秩序を守り抜くためには、国連憲章の原則に基づく包括的、公正かつ永続的なウクライナの平和を実現させることが不可欠です。」と主張されています。戦争当事国による緊迫した状況下での演説とは異なり、グローバル受けする表現となっていますが、その翌日の 21 日に、上川陽子外相は、ニューヨークで国連安保理の改革を目指す日本とドイツ、インド、ブラジルの「G4」の外相会合に出席し、共同声明で「期限を設けて安保理改革の具体的成果を達成する」と強調したとのことですので、国連改革へ向けて、国際間での協調が漸次進んで行くことを願う次第です。

神余氏は、日独フォーラムの冒頭で、安保理は構造上欠陥があり、全国連加盟国に対して拘束力がある唯一の機関が安保理であるにも関わらず、常任理事国の一つでも拒否権を発動すると安保理事会の決定を阻止でき、また総会決議では拘束力がないと説明されました。安保理の改革としまして、２段階改革をご提案され、拒否権の乱用防止と平和のための結集決議を総会で決議するべきだとご提唱されました。また、谷口氏はご講演終了後のコメントで同様に、平和のための非難決議を総会で何度も何度も忍耐強く決議し、圧力をかけることが重要だとおっしゃっていました。

包括的な専門知識を持ち合わせておりませんが、国連憲章に規定されている安保理常任理事国が持つ拒否権そのものを、そもそもどの様な条件下で変更（廃止）することが可能なのか、私には大変興味があります。仮に安保理での拒否権が唯一絶対の権利で変更や廃止が不可能でしたら、国連改革は永遠に机上の空論となってしまいます。

なお、ゼレンスキー演説ですが、日本のメディアでは、「総会で 2/3 以上の賛成で拒否権をくつがえす案を提示した」とありますが、ドイツの報道では、その具体的な内容については触れられていません。

10 月に入り、国連安保理は、15 カ国の理事国のうち棄権した常任理事国のロシアと中国を除き、13 カ国が賛成し、ハイチに多国籍治安部隊を派遣する決議案を承認しました。が、ハマスとイスラエルの衝突に対する対応を協議するために 10 月 8 日に開催されました安保理の会合では、ハマスのイスラエルに対する大規模攻撃を全会一致で非難できず、安保理の限界が再度露見されたように思えます。世界中で紛争あるいは戦争が多発しつつあるこの様な状況の中で、以前にも増して安保理の重要性と改革が声を大にして望まれます。

今後とも私もドイツから、国連での粘り強い日独の協力を応援し、ドイツではの情報を発信していきたいと考えております。

## 「世界的危機に直面するドイツ経済」
## 新潟県立大学教授　中島厚志氏講演会

事務局　津澤　元一

9月16日(土)午後、新潟県立大学国際経済学部教授、中島厚志氏による講演会がオンラインで開催されました。

冒頭、成川会長による中島氏の紹介が行われましたが、(株)日本興業銀行で、成川会長の一年下で入行した中島氏は、当時からフランス語の達人として知られ、またその後はパリの拠点長も歴任された後、本店調査部長として、みずほ三行統合時に、みずほ総合研究所の設立を進める等、成川会長と様々な局面で仕事をご一緒されたとのこと。また2000年代には、テレビ東京の夜の報道番組、「ワールド・ビジネス・サテライト(WBS)」の経済コメンテーターを務めていたことも紹介されました。また個人的には、1990年代終わりに、当時パリ拠点長を務められていた中島氏と、パリ郊外にある INSEAD というビジネス・スクールの１週間の研修でご一緒させて頂きました。今回オンラインではありますが、久し振りに彼の「万年少年」のような若々しい姿に接し、講演を聴くことができたのはたいへん楽しい経験でした。

当日の講演ですが、「ドイツの専門家ではない」という冒頭の中島氏のコメントにも関わらず、ドイツが直面する足元の大きな課題を、多くの統計資料を駆使しながら、分かり易く、且つ多面的にご説明頂くものでした。

冒頭、ドイツが1952年以来の大きな物価上昇に直面し、住宅価格も1971年の統計開始以降最大の上昇となっているという経済実態が説明されます。２０世紀の大戦後、二度に渡り激しいインフレで通貨価値が消滅した経験を有するドイツは、世界の中でも最も物価安定を重視する国です。実際私がドイツに滞在した1990年代には、東西ドイツ統合、特に東西マルクを１：１で統合したことにより引き起こされた過剰流動性によるインフレを、当時のドイツ連邦銀行が決然とした高金利政策で抑え込んだ姿を目撃したものでした。しかし、そのドイツが新たなインフレと、それに伴う消費低迷及び景気の悪化という脅威に晒されているのです。更に、「進展する世界経済の分断」という観点から、米中対立や地政学リスクの高まりといった世界経済の分断(デカップリング)の進展が、強力な製造業とその輸出力に支えられたドイツ経済に及ぼす負の影響も説明されることになります。

こうした危機への対応として、まずＥＵによる、「環境とデジタル化」、就中ロシアからのエネルギー供給減を受けたエネルギー需要の絞り込みと、脱炭素化に向けた再生可能エネルギーへの転換により乗り超える方策が示され、その中でもドイツがそうしたＥＵの政策転換の中心となっていることが説明されます。こうした官民を挙げて危機に対応しようという姿勢は、かつて1970年代に発生したオイルショックを克服した際の日本に類似している、という指摘は、講演後の質問でも改めて取り上げられました。またドイツ経済失速の一因でもある、国内景気が減速する中国との関係についても、ＥＵ全体としての方針を踏まえ、ドイツも、中国は依然重要なパートナーであるが、同時に競争相手、体制上のライバルとして過度の依存を避けながらの「デリスキング」を進める、という対応が紹介されました。かつて中国共産党政権による、チベットや新疆ウイグル地域での少数民族抑圧に批判的であったメルケル政権初期のドイツが、市場としての中国の重要性を認知したことから、そうした「人権擁護」姿勢を弱め、中国との経済関係強化に邁進した時代が終焉し、慎重な国家関係を模索していることが明確に示されることになりました。そして講演は、ドイツが、SDGs に、「世界でも最も真剣に取り組んでいる国の一つ」であることが説明され、締め括られました。

講演後の質疑応答では、こうしたドイツの危機対応を考慮した上での、日本の政策についての議論が行われました。就中、ドイツ以上に、エネルギーや食料品価格の上昇が顕著になっている日本で、政府による単なる補助金の支給というのは余りに短視眼的ではないか、政府はもっと戦略的に公的資金を使うべきではないか、といったコメントが寄せられました。それについての中島氏の回答は、政府の政策が民意を無視することができないため、どうしても短期的な効果に期待することになることから、まさに日本が1970年代のオイルショック時に官民挙げた危機感をバネしそれを乗り越えたような時のような民意を盛り上げられるかが、政権の最大の課題であろうということでした。現在のドイツの姿勢から、日本も学ぶべき点が多いことを改めて痛感させられるコメントです。そして質問の最後は、ウクライナ戦争の今後の展望についてでしたが、これは中島氏によると、ウクライナやそれを支援する欧米諸国、そしてロシアも、財政的に戦争を長期に渡り続けられる状態にはないことから、遅かれ早かれ現状を前提にした停戦は避けられず、その際にはウクライナの復興支援が大きな課題となることから、ドイツのみならず、日本の貢献も大いに期待されることになろう、という言葉で締め括られました。

「専門ではない」ドイツについて、これだけの分析をされていることから、講演の中でも時折言及されていたフランスについては、もっと立ち入った考察とご意見をお持ちであろうことが想像されます。ドイツと並び、いや政治的には、むしろドイツ以上にＥＵを指導してきたフランス。特に米国とは伝統的に距離を置き、ロシアに近い立場を取ってきたフランスについても、また機会を改めて中島氏の分析をお伺いしたい、という気持ちを抱いた当日の講演でした。

2023年9月17日　記

## 企画「ぶらドイツ」を通して発見した日独関係

会員　井口　泰・恵

本年 9 月 22 日、日独協会と横浜日独協会の共催で、「ぶらドイツ」という横浜港周辺を探訪する行事が実施されました。これは、横浜における日独関係の発展の痕跡を発見して、その未来を展望する、とても有意義な企画だと考えた私たちも、参加させていただきました。
当日午前に、参加者は横浜市営地下鉄の馬車道駅に集合し、昼過ぎまで、横浜港を中心とするルートを周遊しました。幸い、当日は曇り空で、暑すぎず、徒歩による横浜探訪に、とても適した気候となりました。

横浜市は、現在 370 万人を超える大都市ですが、江戸時代後期の横浜村の住民は千人にも満たない漁村だったようです。しかし、1858 年、江戸幕府が米、仏、蘭、英, 露 5 か国の間で修好通商条約を締結したのに加えて、1861 年には、プロイセンとの間で、同様の条約を結びました。こうして、日本の 200 年を超える鎖国政策は終わり、モノの貿易だけでなく、金融取引やヒトの往来も、急速に拡大しました。しかし、幕末の日本は治安が悪く、居留地内で暮らす外国人とその家族が、安全快適な生活を送ることは容易でなかったと思われます。こうしたなかで、横浜の山手地区に、プロイセン政府の支援で学校が設けられたことも、重要だと思います（2015 年の日独修好 150 周年資料）。

現地を歩いて強く実感できるのは、横浜が、その後の日本の経済発展に不可欠な立場、ローケーションにあったということです。

第 1 に、現在は「シルクセンター」と呼ばれる横浜港にある建物が象徴する通り、横浜が、当時の日本最大の輸出商品であった絹糸の重要な物流拠点を形成し、上州、甲州、信州、武蔵などの当時の絹糸の主要産地が、現在は国道 16 号線と呼ばれる街道を介して、横浜に結びつけられました。

日本の絹糸の品質への評価が欧米において高まった背景として、産地における養蚕事業者の努力が重要ですが、横浜港においては、輸出絹糸の品質検査がしっかり行われていたことも見逃せません。検査が行われた建物は、現在の横浜第 2 合同庁舎として残っています。その玄関上部のレリーフに、繭の成虫と桑の葉をデザインした紋章があることが、印象的です。

第 2 に、東京と横浜が日本で初めて鉄道で結ばれたということだけでなく、横浜港での船の発着に合わせて東京から列車が運行され、陸運と海運が連結されたことです。今回、横浜新港のふ頭近くに残る、当時の線路、鉄橋、駅舎の一部や、地中から発見された機関車の転車台も見ることができました。これらの鉄道と船舶を利用してドイツ・欧州渡航していた多くの日本人の中には、細菌学者北里柴三郎や、文学者として知られる森鴎外もいました。1886 年から 1892 年まで、北里柴三郎は、ドイツ・ベルリンのロベルト・コッホ研究所で研究生活を送りましたが、日本に帰国後も、当時、ペストが大規模に蔓延していた香港での原因調査のため、横浜港から渡航し、1894 年 7 月に現地でペスト菌を発見して帰国しました（森孝之 2022）。森鴎外は、留学生としてドイツに渡航して各地に 3 年滞在し1888年に、マルセーユ発のフランス船で横浜に帰国したことが文献で確認できます。（六章いちか 2022）

横浜開港資料館は、旧英国総領事館の建物で、中庭に玉楠の大木が現存し、ペリー提督が上陸した時のことが玉楠とともに、展示された絵に描かれています。以前は、海沿いの山下通周辺に各国総領事館や欧米系銀行が集まっていました。現バンク・ド・ロア(ロシア・アジア銀行)の建物は、1935~1945 年にはドイツ総領事館として使われ、戦時中にはドイツ人在留者が住民登録をする場所だったそうです。

19 世紀には、日本との修好通商条約の締約国は、欧米諸国だけだったのですが、日本が開国した時点で、欧米諸国は、中国・上海に租界（バンド）を有していて、そこで居住する欧米人に雇用されていたコックや大工などの中国人の技能労働者が、横浜の居留地を支えるために日本に入国し定住したことが、横浜中華街初代理事長の本に書かれています。(林正兼 2009)　1960 年代の高度成長期以降、中華料理は、日本人に広く好まれるようになっていきました。

今年は、関東大震災 100 周年ですが、震災で発生した瓦礫を埋めて、海沿いの山下公園が造られました。私たちは、山下公園に沿って歩き、ニューグランドホテルに到着しました。そこには、和洋折衷の美しいバンケットルームがあります。このホテルは、第 2 次世界大戦の前に日独伊三国防共協定の祝賀会が行われたところです。3 国は敗戦し、その直後に連合国最高司令官のマッカーサーがこの同じホテルに滞在した写真が、1 階に当日展示されていたのを見学して、戦争の歴史の皮肉を思わされました。

今回の企画をしてくださった方々に、改めて御礼申し上げます。

主要参照文献:
森孝之(2022)『徹底解剖北里柴三郎』 北里研究所
六章いちか(2022)『鴎外「舞姫」徹底解剖』大修館書房
林正兼(小田豊三郎聞き書き)(2009)『横浜中華街物語』集英社など

## 多文化フェア

理事　岡本　博之

緑区にある中山地区センターで 10 月 1 日に開催された多文化フェアに横浜日独協会が参加しました。

次世代の社会教育とシニアの生涯学習のため、地域文化活動のハブとしての企画であり、今回は更に横浜ならではの国際交流を深める目的で関係団体と共催しました。インド舞踊やブラジルサンバ、民族衣装ショーの舞台、フランスクレープ、ウクライナピロシキ、インドビリヤニ、セネガルやフィリピンのシチューの試食、ウクライナ、タイ、中国の母国語トークコーナーを含む 30 近くのブース出展と、正に多文化の賑やかな交流が行われました。

早瀬名誉会長からはヨーロッパの深いいお話しをいただき、大瀬副会長、南雲副会長、山口常務理事、大治理事に、横浜日独協会やアムブルンネン（日独婦人交流会)などの活動紹介をいただき、誠にありがとうございました。至らぬ点が多々あったかと反省しつつ、来年もまたお付き合いを願っております。

## 「ケルン日本文化会館・ベルリン日独センターの活動と近年のベルリン文化事情」を拝聴して

会員　横山　伸一

6月に入会しました横山と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

9月まで続いた猛暑もやっと収まり、秋らしい季節になって来た10月21日（土）、10月の定例イベントとして「ケルン日本文化会館・ベルリン日独センターの活動と近年のベルリン文化事情」についての講演会が戸塚区民文化センターで開催されました。講師の清田とき子氏は上智大学ドイツ語学科の卒業で在学中にボッフム大学で学ばれていました。

その後1979年から2015年まで国際交流基金に勤務し、その間ケルン日本文化会館には計13年余り駐在し、2013年から2015年までには館長を務めていらっしゃいました。2017年から2023年まではベルリン日独センターの副事務総長をされていました。講演前待ち時間の談笑では清田氏の明るいお人柄が見られ、また今回大学時代のご友人方の参加もあり終始和やかな雰囲気で開催されました。

ケルン日本文化会館は1960年代にドイツに日本文化を取り入れ入れようという動きがある中、ケルン市の協力のもと1969年に設立されました。日本文化・芸術の紹介を目的とした展覧会、講演会、映画会、シンポジウムの開催や日本語学習・研究の奨励等様々な文化交流事業の活動の場として発展されてきました。日本のバブル時代（1987～1991年）の交流、日本語学習者の増加。ドイツ統一後の日本熱（1999～2000年）日本の漫画・アニメ人気による日本熱、人気作家の朗読会開催等。さらには東日本大震災時（2011～2015年）の支援交流等時代の変遷に応じながらの文化交流事業をご紹介いただきました。これらの経緯を経て2019年にはケルン日本文化会館、開館50年を迎えられたのでした。

ベルリン日独センターはその設立経緯が興味深かったです。1983年第9回先進国首脳会議（ウイリアムバーグ・サミット）の際に当時の日本の中曽根首相と西ドイツのコール首相が将来の日独交流の強化・促進に向けて協議・合意しその設立が決まりました。

その際戦後廃墟のまま残っていた旧日本大使館の建物を修復再利用して活動の場としたのでした。本会成川会長は、銀行員として駐在時にその関連業務に関わっておられ、当時の様子をエピソードを交えお話しされました。その後東西ドイツが統一してベルリンが統一ドイツの首都となると同建物が日本大使館となり、日独文化センターは別地に移転したのでした。

同センターは同様に展覧会・音楽会・朗読会・映画上映会・芝居上演等の文化事業、各世代の人的交流事業、シンポジウム等会議系事業を中心に日独の知的交流・異文化間交流の拠点としてその存在感を示しています。

日独の交流は決して当たり前な事ではなく、清田さん始め多くの方々の長い年月のご尽力のおかげで成り立っているんだなと感じました。

最後に、私事ではありますが9月15日から22日まで訪独しましたのでお話しさせて頂きます。１８歳の次男がミュンヘン近郊の町にサッカー留学しており初めて訪れてみました。愚息の試合で歓声を上げ、ブンデスリーグの試合の熱狂ぶりに驚き、オクトーバーフェストでビールを飲みながらみんなと大声で歌を歌い、世界遺産のノイシュバンシュタイン城の美しさに感嘆した充実した１週間でした。次回は今回お話のあったケルンやベルリンにぜひ行ってみたいと思います。

---

## 他地区日独協会活動報告：
## 2023.10.21～22　千葉日独協会
## 「習志野ドイツフェア」　監事　能登　崇

今回は日頃大変お世話になっている千葉日独協会他の協力で昨秋開催された「習志野ドイツフェア」をご紹介致します。昨年10月、JDGYへの直接依頼ではなくて恐縮ですが、偶々JDGYの戸井田、能登両監事がメンバーでもある、デュッセルドルフ日本男声合唱団に千葉日独協会より上記ドイツフェアへの出演打診が舞い込みました。団としてはお声が掛れば余程のことがない限りはお断りをしないとのポリシーのもと喜んで参加させて頂きました。

当日は絶好の秋晴れに恵まれ、津田沼駅南口前の特設舞台を中心にドイツフェアが大勢の来客を迎えて賑やかに開催され、室内では千葉日独協会のコーナーも開設され、日独交流活動の展示や関連商品の販売なども行われておりました。舞台では、我々男声合唱団の他に、アルプス音楽団や習志野第九合唱団等のパフォーマンスも行われ、大変楽しい秋の一日でした。

千葉日独協会の植松事務局長よりフェアのお話しを伺った処、事務局長も第九合唱団の一員として出演されておられた由‥矢張り、10～11月は文化、芸術の秋ですね！

添付スナップは演奏直後、ビール痛飲前のデュッセルドルフ男声合唱団のメンバー、専属伴奏者他のスナップです。

デュッセルドルフ日本男声合唱団員と関係者の皆様。
中列左から2人目－戸井田監事、前列左から4人目－筆者

なお当日のデュッセルドルフ男声合唱団の演奏で、ドイツ民謡や愛飲歌等をお聴きになりたい方は、演奏動画URL（30分程）を以下に貼っておりますので、ジョッキを片手に歌う賑やかな合唱とドイツフェアをお楽しみください。

習志野ドイツフェア＆グルメフェスタ 2023
https://youtu.be/b5f1GGJU4Uo

## 「秋の永青文庫美術館・細川庭園散策」

会員　磯貝　喜兵衛

横浜日独協会文化委員会（寺澤行忠委員長）主催の「秋の永青文庫美術館・細川庭園散策」は快晴の 11 月 1 日（水）会員 19 人が参加して、楽しく行われました。
来日中の元駐日ドイツ大使、Volker Stanzel 夫妻も集合場所の目白駅に来られ、皆さんと挨拶を交わされる一幕も。

その後バスで移動し、能登崇さんが大学生時代を過ごされた「和敬塾」（旧細川侯爵邸）脇を通って、永青文庫美術館へ。折しも開催中の同館秘蔵・重要文化財『長谷雄草紙』をはじめ、元肥後藩主・細川家所蔵の展示品を鑑賞しました。

終わって、徒歩で早稲田大学近くのフランス料理店「キャトル フォンテーヌ」でランチとお喋りをゆっくり楽しんだあと、早稲田大学キャンパスを通って、芭蕉庵公園を散策、大正ロマン溢れる細川家の『松聲閣』の広大な庭を散歩。最後に茶席「椿」で抹茶とお菓子をゆっくり賞味し、誠に楽しく、充実した秋の文化ツアーを満喫させて頂きました。寺澤先生はじめ企画・実行して頂いた役員の皆さんに、厚く御礼申し上げます。

---

## 「ドイツのお肉屋さん、パン屋さんで修業した職人のお話」

理事　北井　康一

**第 1 部 講演：今 泉　瞬 氏 ブッツデリカテッセン**
**ドイツ国家資格ゲゼレ（メッツゲライ）取得**

今泉氏の講演では、ドイツで本格的にハム・ソーセージ造りの勉強をして、ドイツの国家資格である、ゲゼレ（メッツゲライ）を取得、帰国後、日本で本格的なハム・ソーセージ造りを開始して、皆様に喜ばれる。

ドイツでは、ゲゼレの修行中は、中間試験、期末試験そして、卒業試験に合格して晴れて、ゲゼレとなり、商品を販売する事が出来るのだそうです。あと、マイスターの資格を取ると、若い人を教育したり経営の指導をしたりすることが出来るとの事。そのマイスター試験は、3 回までしか受験出来ないのだそうです。厳しい制度です。

ドイツの教育制度は、今の日本とは全然違い、上の学校に行く人は、戦前の旧制中学の様な学校に通いますが、手に職を付ける人は小学校を卒業すると、実科学校と言う所に進学し、様々な職業の基礎訓練を学び、資格を取り、社会人として世に出て行くそうです。

ただ、現在では、大学に進学を希望する人も多くなり、食肉関連の方面に進む学生が少なくなってきているとの事。

学校では、牛や豚の屠畜から始まり、1 時間半で各部位の整形を終了し、商品として、展示・販売出来る段階まで仕上げる試験もあるそうです。

講演後の質疑応答では、今、ドイツ圏で人気のある、カリー・ブルストに関する質問も出ましたが、講師の方が留学中には、まだなかったので、また次回にでも期待したいと思います。

**第 2 部　須田 英梨子氏**（動画形式）

国家資格マイスター（パン）、ゲゼレ（菓子）を取得し、現在もミュンヘンのパン屋で勤務中

第 2 部は動画による講演で、タカラ食品から、渡独され、ゲゼレ、マイスターの資格を取得された須田絵梨子さんの、ミュンヘンのパン屋さんでのゲゼレの取得のお話が中心で、ドイツの食文化について、日本との違いなど、現地での体験に根差したお話を、パワー・ポイントなどを駆使してご紹介いただきました。

また、ドイツでは、季節感を大事にする国民性で、カーニバルの時は、揚げドーナツ、イースターの時は、ウサギや卵のケーキを作り、子供たちに大人気だそうです。

私も、以前、若い頃、ヴィーンに半年ほど住んでいたので、現地で食した、パンや、ケーキを思い出しながら拝聴しました。　（完）

# ドイツの中小企業の真髄

会員　坂井　啓治
（元中小企業委員長）

**『隠れたチャンピオン』**　凡そ 20 年前「欧州の病人」と呼ばれたドイツが、その後 10 年経って「EU 内で独り勝ちの国」に急成長した。その背景に中小企業の大きな役割があった、と言われたことは周知である。その企業の目的とするところは、「世界で売れる製品を開発し、世界市場で売る」ことであり、手法の一つが輸出の成果にあると言われている。

この事実を突き止めたドイツのコンサルティング会社の Hermann Simon は「Hidden Champion 隠れたチャンピオン」と呼び、世界市場で推定されるこのような企業約 3000 社の半数近くがドイツ企業と言う。

**『輸出志向のドイツ？』**　因みに 2011 年のドイツの輸出総額は、英仏伊の総額に匹敵する。同時期の日独の一人当たりの輸出額ではドイツは日本の約 3 倍だった。（経産研岩本晃一氏 PDP2015 より）

問題はドイツがどうしてこれほど輸出に強いのか、何を輸出しているのかだが、例えば ICカード・アイフォン・電子機器用の特殊接着剤で世界の 50-80%のシェアを誇る企業があり、観賞魚用餌で世界市場の 60%を誇る企業もあるとか。ドイツの主な輸出市場と言えば、陸続きの域内では、その国の数は約５０ヶ国（日本の国内市場は 47 都道府県)で、山地が少なく網の目のように張り巡らすアウとバーン(事実上速度制限のない高速度道路)をドイツから各地国境まで走れば数時間で着くところだろう。

**『輸入品の多いドイツ』**　近年何度かドイツに旅しているが、いつもショックを受けるのが、著名な百貨店でお土産を探すのに苦労することだ。‘Made in Germany’のラベルが少な過ぎるからである。中国を中心とする東アジアからと思われる製品が目白押し。ある日、南ドイツで黒い森の衣装を着た人形を買おうと売り場に行くと 2 種類あり、一つは 100 ユーロ（約¥15,000)、もう一つは５０ユーロ、大きさは 30 ㎝位でほぼ同じ位だ。安い方はどう見ても目鼻が可愛くない。これからクリスマス商戦に入るが、売り場に飾られるグッズには安い輸入品が多い。

**『お客様は神様です』**　こんな演歌が日本ではやった時代がある。今でも多くの取引ではこれがまかり通っている。ドイツ市場では ‘Buyer is not The King’ 「長く使えるもの＝良品=高価」。普通品の 20-30%程度高くても売れる市場がドイツにはある。（所得水準が高いだけでなく評価のレベルが違うのだろう。）薄い利益で安く売るのは他国に任せよう。

**『ドイツ企業と手を結ぶ』**「横浜ものづくり企業ガイド 20XX 年」（イノベーションを目指す横浜の企業）掲載の百何十社が生産しているものの中に、ドイツ市場で通ると思われるものや、ドイツから輸入すれば日本市場で通るもの、或いはドイツ側と手を結び技術交流まで行けば将来のメリットが約束されるものがある。海外の会社同士の付き合いは双方に限らず世界の市場情報が入ってくる可能性があるのだ。

**『良品にはお客がついてくる』**　言うまでもなく素材・部品・加工品の交流は簡単ではない。組み立て工場の規格、公的機関の許認可も必要かもしれない。日本で自社製品に自信があれば、ドイツ市場はついてくる。どこかの国のように輸入規制や関税引き上げなどにより、折角進出しても引き上げざるを得ない経験を既に多くの日本企業が経験している。

**『ドイツの中小企業のオーナー気質』**　製造業のトップは欧州の国際見本市（メッセ）へ、頻度高く見学・出展して市場調査をする。出展するとブースに現れるのは、バイヤー/世界の同業者/ひやかしが各 1/3 であると言う。これぞ一石二鳥である。製品の質・価格の調査は、オーナーにとり最重要である。

日本の自動車メーカーが、その系列会社（下請け）の社長と来独し、ドイツ大手の自動車内装メーカーを訪問した。「日本では、部品の真夜中の時間納入があるが、ドイツでは如何ですか」と。これに対し「それは断ります。こちらにも都合があり、そんな組み立て工場への納入はお断りです」と。
品質・価格に自信と誇りをもっている証だろう。

自社の特殊技術による板金を、ドイツへ進出してやりたいといと考えていた地域中小企業のオーナーと面談したことがある。話はいつとはなくドイツの中小企業のオーナーシップについて話し合った。日独中小企業のオーナーの方々と接触を持った経験から、両国のオーナーには共通性が多いが、ドイツ人には、逞しい想像力・情熱・好奇心そして自信に一日の長ありとみたことを率直に話した。また取引先と従業員に対し誠意と信頼を持ちつつ、‘ＳＤＧｓ’（持続可能な開発目標）にも懸命の努力をしていることに感銘を受けた。

昨今のドイツはエネルギー問題で元気がないようですが、「新しい隠れたチャンピオン」が息を吹き返してくれるものと信じ、日本が起爆剤となるような事が出来ないものかと祈るばかりです。（完）

IDEC-JDGY 中小企業向けｾﾐﾅｰで熱弁の Bosch㈱ Meder 社長

パネリストの中小企業オーナー

文化委員会企画

## 教養講座「日本文学逍遥」

【日時】原則として毎月第１水曜日 13:00～14:30

- １月 10日(水)「百人一首かるた会」
  神奈川県民センター会議室 604号室 13時～15時
- ２月 ７日(水) オンライン講座
- ３月 ６日(水) オンライン講座
- ４月 ３日(水) オンライン講座

【講師】寺澤行忠常務理事(慶応義塾大学名誉教授)

## クリスマス会 (2023.12.9 霧笛楼にて)

＊WEB 会員様（メールアドレスを登録されている会員様）には、イベントの参加・不参加を問う葉書は差し上げませんので、メール又はホームページからお申し込み下さい。

Instagram

## イベント予定

■ １月 イベント：

- 日 時： １月24日(水) 14:00～16:00 会員のみ 定員50名
- 会 場： THE POINT　４L 会議室
  エキニア横浜４階（横浜駅直結）
- 講 師：クレーメンス・フォン・ゲッツェ氏
  駐日ドイツ連邦共和国大使
- 演 題：「現在の国際情勢を踏まえた日独の連携」通訳付き
- 参加費： 1,000 円

■ ２月 イベント：

- 日 時： ２月17日(土) 15:00～16:30 会員以外も参加可
- 会 場： 戸塚区総合庁舎３階　多目的スペース(中)
- 講 師：スザンネ・シーロック氏
  バイエルン州駐日代表部 代表
- 演 題：「これであなたもバイエルン通」
  バイエルン州の７つの行政区の違いから、各地方の方言や食べ物、特産品などをご紹介します。これを聞けばあなたも「バイエルン通」に！
- 参加費： 1,000 円

■ ３月 イベント：

- 日 時： ３月16日(土) 15:00～16:30
- 会 場： 未定
- 講 師： 千原 嗣朗（つぐお）氏
  横浜日独協会会員、元 JTB 勤務、
  NPO 北東アジア輸送回廊ネットワーク会員
- 演 題：「ツーリズムよもやま話」
  SDGs ツーリズム（持続可能な旅行）から、「心に刻む旅」まで
- 参加費： 1,000 円

＜新入会員＞ 2023 年４月～

- 松井　清　様　（４月入会）
- 井口 泰・恵 様（４月入会）
- 横山 伸一 様　（６月入会）
- 石井 渚沙 様　（10 月入会）
- 日本バウシュ株式会社 様（法人会員 ７月入会）

認定NPO法人**横浜日独協会会報** 発行 2024.1.1 (第 69 号)
所在地：〒247-0007
横浜市栄区小菅ケ谷 1-2-1 地球市民かながわプラザ
NPOなどのための事務室内　事務局：齊藤　津澤
Tel:　080-7807-7236
E-Mail: jdg-yokohama2010@outlook.jp
会報編集責任者: 山口 利由子
E-Mail : riyuko.yamaguchi@gmail.com
横浜日独協会ホームページ　https://jdgy.sub.jp

### 法人会員

株式会社文芸社　ウィンクレル株式会社　ボッシュ株式会社　トルンプ株式会社　公益財団法人登戸学寮
ワインブテイック伏見　モトスミ・ブレーメン通り商店街振興組合　横浜国立大学ー成長戦略研究センター
株式会社コトブキ　神奈川大学　ケルヒャージャパン株式会社　一般社団法人 如水会 横浜支部　日独産業協会(DJW)
キャリア・デベロプメント・アソシエイツ(株)　富士・フォイトハイドロ株式会社　日本バウシュ株式会社